

# 1. 評価結果概要表

作成日平成21年1月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770800146
法人名	株式会社せとうち福祉サービス
事業所名	グループホームせとうち
所在地	三豊市三野町吉津甲605番地2 (電話)0875-82-3992

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年12月4日	評価決定日	平成21年1月13日

## 【情報提供票より】(20年 11月 14日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 15日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.2 人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部
------	------------------

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500円	その他の経費(月額)	12,600円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,150 円			

### (4)利用者の概要(11月 14日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 87.3歳	最低	82歳	最高	100歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	鳴田内科医院	小野歯科医院	永康病院
---------	--------	--------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平屋造りのバリアフリーは、安全を重視し明るく家庭的な温もりのある落ち着いた雰囲気である。理念の「毎日楽しく、毎日笑顔」「ゆったりとおだやかな心を大切にしましょう」などを、管理者、職員が一人ひとりの尊厳や希望、意向を大切にしながら実践に向けて取り組んでいる。利用者は、職員と食事の準備や片付けをしたり、歌やゲームなどできる範囲の役割や気晴らしを一緒にしながら、共有した楽しい時間を過ごしている。体調や種々の制約を考慮しながら、外出や地域の行事にも参加して交流に努め安心できる生活をしている様子がかがえ家族からの信頼を築いている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題としてドアの開閉について指摘があり、直ちに修理をして改善ができた。しかし、途中で外部評価の課題取り組みが中断している。今後は評価を活かし継続した改善の取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全員の職員が意見を出し合い取り組むことが望ましいことは理解しているが、職員の不足で多忙な日々が続き全職員で共有した自己評価には至っていない。現在は職員数も確保でき環境が改善したため、今後の取り組みに期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催している。運営状況の報告や情報収集、参加者の意見交換、また、現場状況の見学も取り入れグループホームの啓蒙に努力している。回を重ねサービス向上に活かしていくために、さらなる取り組みを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情の受付窓口や意見箱を設置している。面会時には家族が意見や不満、苦情などを話しやすいように環境を整え、運営に反映するために前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の思いや希望を把握しながら、職員は利用者と一緒にスーパーやコンビニへの買物や食材買出しなどで外出をしている。また、地域の行事(お寺や福祉祭り・はっさく祭り)にも参加して地域の人々との交流に努めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者・職員が共に話し合い、4項目からなる事業所独自の理念をつくりあげている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、玄関と居間に掲げられている。管理者や職員は月1回全員参加のミーティングで、理念を共有し日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(お寺や福祉祭り・はっさく祭り)に参加したり、買物や散髪などの外出は挨拶や会話をし顔なじみになる機会になっている。また、職員も地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を実施する意義は理解しているが、職員の不足で多忙な日々が続き全職員で共有した自己評価には至っていない。前年の外部評価の課題も途中で取り組みが中断している。	○	現在は職員数も確保でき環境が改善したため、今後の自己評価や外部評価の取り組みに期待したい。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。運営状況の報告、情報収集や意見交換、現場状況の見学も取り入れサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議でコミュニケーションを図ると共に、管理者は常に市町担当者に状況報告や情報収集をして行政側と共に質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に事業所の便りを送ったり、面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態などを報告しているが、緊急時には電話で対応している。職員と利用者、家族のコミュニケーションを一層良好にするために職員のネームを検討している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付窓口や意見箱を設置している。面会時には家族が意見や不満、苦情などを話しやすいように環境を整え、運営に反映できる機会を設け対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職者が続き他の同系列からの応援などで対応し、利用者の影響を最小限に抑える配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修の情報はあるが、勤務の都合上受講を断念せざるを得ない現状であった。しかし、職員不足をお互いの協力で利用者の安心や安全を配慮したケアに努力した。	○	今後は積極的に研修計画を実施して、職員の育成をするための取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間では、同業者の交流ができています。来年3月に三豊市の福祉関係全体で協会を設立の予定で、管理者や職員が地域の同業者と交流を通じた向上をめざしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急でサービス利用するケースが多く、本人や家族が見学したり説明を受け納得してのサービス利用は少ない。職員は個々の利用者の条件に合わせ、家族と相談したり協力してもらったりしながら馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歌を歌ったりゲーム、特に風船バレーは利用者の好きなゲームで職員も共に楽しんでいる。また、諺や漬物の漬け方などを教えてもらい、お互いに支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	世間話や日常会話の中で利用者の話を聴き、意向や希望などの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から希望や意見を聞き、職員や関係者も必要に応じて話し合いを持ち介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに見直しをしている。利用者の状態変化には、その都度現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同系列のディサービスで、ボランティアの余興に参加したり、要望に応じて通院介助など、柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向や希望を大切にしながら、かかりつけ医の受診支援や必要に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用時に家族の意向を聞き話し合うが、本人や家族、かかりつけ医、職員、関係者などと繰り返し話し合い、方針を共有するまでには至っていない。	○	前年に継続しての課題である。事業所の方針を明確にして本人や家族、かかりつけ医や職員が情報や方針を共有できる話し合いを持つ取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を大切に、優しい言葉かけや態度で接するように努めている。記録などの個人情報は事務所に保管し情報の保護をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしながら、その人らしく暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや下膳、台拭きなど食事の準備や片付けを一人ひとりの利用者ができる範囲で、職員と一緒に楽しみながらしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯や順番は、利用者の希望や状況、その日の業務内容で決めているが、利用者の希望に沿うように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者との日常の会話から役割、楽しみごと、気晴らしなど把握に努めているが、一人ひとりについての支援には至っていない。	○	一人ひとりについての生活歴や残存能力を見つけ出し、役割、楽しみごと、気晴らしなどの支援への取り組みを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望でスーパーやコンビニへの買物や週3回の食材買出しなどをしたり、グループに分かれてのドライブなど日常的な外出支援に取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は気づばりや安全の配慮をしながら、日中は、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防火訓練を実施しており、職員は避難方法や避難場所などについて理解している。また、セコムを導入して緊急に対応できるようにしている。	○	自己評価の課題でもあるが、全職員がマニュアルに順じた行動が取れ、利用者を安全に避難できることを目標にあげている。全職員の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量を記録し、一人ひとりの栄養バランスや水分の確保を支援している。また、糖尿病の疾病がある利用者で、在宅から主治医の指導で夕食を外食委託するなど継続した利用に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が明るく不快な臭いや音は無くバリアフリーになっている。廊下も広く居間の壁には大きな季節感のある手作りカレンダーを吊るし、コタツや椅子などを配置して好みの場所で過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望でベッドか畳の選択ができる。使い慣れた家具やソファを置いたり、好みの小物を飾り明るく居心地の良い居室になっている。		